

日本植生史学会ニュースレター

No.55 October 14, 2021

第36回日本植生史学会大会のご案内（最終報）・学会ニュース

第36回日本植生史学会大会のご案内（最終報）

第36回日本植生史学会大会を下記の要領で開催します。今大会は現地会場とオンラインによるハイブリッド方式で開催します。しかしながら、新型コロナウイルスの感染状況次第では、全てオンラインでの開催に変更する可能性があります。その場合は、改めてお知らせを致します。会員の皆様には学会ホームページ上の大会案内の告知にご注意いただく様に重ねてお願い申し上げます。

第36回日本植生史学会大会 HP

<http://hisbot2021.main.jp/>

- ◆ 主催 日本植生史学会
- ◆ 共催 帝京大学文化財研究所・山梨県考古学協会
- ◆ 開催日程

2021年10月25日（月）ポスター・講演要旨集の大会ホームページへの掲示

10月30日（土）10：00～17：30 公開シンポ・論文賞受賞講演

10月31日（日）10：00～17：00 一般研究発表（口頭・ポスター）・総会

- ◆ 開催方法

10月30日（土）の公開シンポジウムは、現地会場とオンラインでのハイブリッド形式で開催します。会場での参加は40名を定員とし、申込先着順とします。論文賞受賞講演は、公開シンポ終了後に現地会場およびオンラインで行います。懇親会はオンラインのみで行います。

10月31日（日）の口頭発表はZoomによるオンライン講演とします。現地会場からのオンライン発表と参加も可能です。ポスター発表はオンラインのみでの開催です。総会もオンラインでの開催としますが、現地会場でのオンライン参加も可能です。

巡検は開催しません。

- ◆ 会場

帝京大学文化財研究所 大ホール・講義室

〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場 1566-2

<https://www.teikyo-u.ac.jp/bunkazai/>

アクセス：JR 中央線『石和温泉駅』で下車。徒歩で約20分。

宿泊：各自でご予約ください。大会会場周辺にはビジネスホテル、石和温泉駅周辺には温泉旅館があります。

- ◆ 大会実行委員：中山誠二（委員長）・佐野 隆・赤司千恵・工藤雄一郎・那須浩郎・林 竜馬・真邊 彩・浦 蓉子
- ◆ 参加費：無料。ただし、参加するためには事前登録が必要です。

- ◆ 参加資格：公開シンポジウムのみ非会員でも参加できます。その他については、非会員の参加・発表はできません。参加・発表をご希望の方は以下からご入会ください。 <http://hisbot.jp/about/regist>

- ◆ 申し込み方法

大会ホームページにある『申し込みフォーム <http://hisbot2021.main.jp/form/>』からお申込み下さい。

- ◆ 申し込み締切り、講演要旨、ポスター提出期限

一般研究発表の申込・講演要旨の提出は締め切りました。

大会参加申込・懇親会申込締め切り・ポスター提出期限：10月22日（金）

- ◆ オンライン開催要領

大会を開催する Zoom (Web 会議サービス) の URL を 10 月 27 日にメールで参加登録者にお知らせします。Zoom への接続・利用方法は大会ホームページを参照してください。 <http://hisbot2021.main.jp/yokou/zoom/>

10 月 30 日（土）と 31 日（日）の 9：00～10：00 に Zoom 接続テストの時間を設けています。接続に不安のある方は、この時間にお試しください。

Zoom アプリケーションをインストールされていない場合は、前もって Zoom ダウンロード・センターにアクセスして無料サインアップを行い、インストールを行ってください。口頭発表や総会の質疑応答は、Zoom 画面の下にあるチャット機能（名前を入力、座長が指名後に発言）を利用します。

ポスター発表は大会ホームページ上で行います。10 月 25 日（月）より大会ホームページにポスターを掲示しますので、コメント機能を使って議論を行ってください。10 月 31 日（日）のポスター発表の時間帯には、Zoom を使った 1 人 2 分間のフラッシュトークを行います。

講演要旨は PDF 版のみとし、大会ホームページに掲示します。大会ホームページへのアクセスのためのパスワードを 10 月 24 日に参加登録者にお知らせします。

総会は Zoom で行います。事前に総会資料を大会ホームページで閲覧できるようにしたうえで、総会当日に Zoom で質疑応答と議決を行います。議決は挙手機能（Zoom 画面の下の「参加者」→「手を挙げる」）を利用します。

参加申し込みや要旨作成、オンライン接続などに関するお問合せ：大会実行委員会 (hisbot36@googlegroups.com) までお願いします。

- ◆ 大会プログラム

2021 年 10 月 30 日（土） 公開シンポジウム，論文賞記念講演，懇親会

9：00～10：00 受付・Zoom 接続テスト

10：00～16：40 公開シンポジウム（帝京大学文化財研究所大ホール・オンライン）

テーマ：「縄文時代のマメ科植物のドメスティケーション」

オーガナイザー：中山誠二（帝京大学文化財研究所）

趣旨：日本列島の栽培植物についてはこれまで、そのほとんどが弥生時代以降にもたらされた大陸起源の外来植物と考えられてきた。しかし、近年の植物考古学研究の中で、縄文時代にさかのぼるマメ科植物の存在が確認され、日本列島内におけるそれらの栽培化の可能性が議論されるようになってきた。今回の公開シンポジウムでは、縄文時代のマメ科植物を中心にその種類と時代的变化をとらえ、同時代の日本列島において果たしてマメ科植物の domestication（栽培化）が進行したのか、否かを議論する。これらの議論を通して、「植物の domestication」とは何かを改めて問い直してみたい。

10：00～10：10 開会挨拶

10：10～10：20 趣旨説明 中山誠二（帝京大学文化財研究所）

10：20～11：20

基調講演：「遺伝学・育種学からみたマメ科植物の domestication」

友岡憲彦（農研機構遺伝資源研究センター）

11：20～12：00

基調報告 1：「中国・韓国・日本列島での検出状況とマメ科植物の変化」 小畑弘己（熊本大学）

12：00～13：00 昼食・休憩

13：00～13：40

基調報告 2：「縄文時代のマメ科植物の形質変化」 中山誠二（帝京大学文化財研究所）

13：40～14：20

基調報告 3：「縄文時代の人間＝植物関係をどのような視点と方法で説明するか」 山田昌久（東京都立大学）

14：20～14：30 休憩

14：30～15：10

基調報告 4：「マメ科の人類生態学・歴史生態学」 高瀬克範（北海道大学）

15：10～16：30

パネルディスカッション

司会：佐野 隆（北杜市教育委員会）・那須浩郎（岡山理科大学）

16：30～16：40 閉会挨拶

16：40～17：30 論文賞記念行事（大ホール・オンライン）

16：40～16：50 論文賞 表彰式

16：50～17：10 論文賞受賞記念講演：赤司千恵

17：10～17：30 論文賞受賞記念講演：高岡貞夫

18：30～20：30 オンライン懇親会

2021年10月31日(日) 一般研究発表(口頭・ポスター), 総会

9:00-10:00 Zoom 接続テスト

口頭発表 A「生態・古生態・環境変動」

O-01 10:00-10:15 「立谷川(山形県山形市・天童市)における最終氷期最盛期の埋没林の概要と構成樹種」

○山川千代美・林 竜馬・植田弥生・山野井 徹・大江新一・高原 光・百原 新・大山幹成・大脇航平・出穂雅実・岩瀬 彬・江草俊作・平塚幸人

O-02 10:15-10:30 「立谷川(山形県山形市・天童市)における最終氷期最盛期の埋没林から出土した植物化石とその植物地理学的意義」

○百原 新・大脇航平・大江新一・高原 光・山川千代美・林 竜馬

O-03 10:30-10:45 「立谷川(山形県山形市・天童市)における最終氷期最盛期の埋没林堆積物の花粉分析からみた東日本の植生地理」

○高原 光・林 竜馬・山川千代美・大江新一・百原 新

O-04 10:45-11:00 「巖島神社社叢の植生景観変遷とその背景について」

○小椋純一

11:00-11:15 休憩

11:15-12:00 総会

12:00-13:00 昼食

13:00-15:00 ポスター発表(1人2分間のフラッシュトークをZoomで行います)

A「生態・古生態・環境変動」

P-01 13:00-13:03 「カラマツ人工林における花粉生産量」

○清永丈太

P-02 13:03-13:06 「下北半島猿ヶ森の後期完新世ヒノキアスナロ埋没林に伴う大型植物化石群の種組成と堆積環境」

○大塚麻友・百原 新・工藤雄一郎・糟谷大河

P-03 13:06-13:09 「湖沼近過去調査法による琵琶湖南湖における過去150年間の集水域・水草植生の復元」

○林 竜馬・里口保文・芳賀裕樹・鈴木隆仁・関 宰・加 三千宣

P-04 13:09-13:12 「五島列島福江島、山内盆地における中期更新世以降の大型植物化石群(予察的研究)」

○西内李佳・近藤玲介・高場智博・植村杏太・長井雅史・坂本竜彦・百原 新

B「人と植物の関係史」

P-05 13:12-13:15 「弥生時代から古墳時代にかけての妻沼低地・大宮台地周辺での栽培穀物利用の変遷」

○遠藤英子・柿沼幹夫

P-06 13:15-13:18 「威信材から読み解く古代中国の生業：環境復元のための物質文化研究」

○渋谷綾子・神谷嘉美・南 武志・飯塚義之・石田智子

P-07 13:18-13:21 「縄文時代におけるニワトコ属果実の用途の推定」

○平岡 和・那須浩郎・金子明裕

P-08 13:21-13:24 「アイヌ文化において繊維利用が行われたエゾイラクサおよびムカゴイラクサの茎の解剖学的特徴」

○千原鴻志・佐野雄三

P-09 13:24-13:27 「中世シルクロード交易都市の食文化」

○赤司千恵・中山誠二

C 「分類・系統・生物地理」

P-10 13:27-13:30 「北東アジアにおける最終氷期の遺存樹木 3 種の種分布モデリングによる分布変遷の推定」

○設楽拓人・松井哲哉・津山幾太郎・百原 新

口頭発表 B 「人と植物の関係史」

O-05 15:00-15:15 「武蔵野台地東端上の近世初期遺跡より産出した植物珪酸体化石群」

○江口誠一・鈴木伸哉・清永丈太

O-06 15:15-15:30 「長野県星叢峠黒耀石原産地遺跡から出土した縄文時代後期の土木材の樹種選択」

○能城修一

O-07 15:30-15:45 「福井県鳥浜貝塚出土編みかごの素材植物と技法から見た縄文時代前期の植物利用」

○佐々木由香・鈴木三男・小林和貴・能城修一・鯨本真友美

O-08 15:45-16:00 「アメリカ北西海岸民族誌にみる編組製品と土器の相互補完性」

○西原和代

16:00-16:15 休憩

O-09 16:15-16:30 「コーネリアンチェリー (Cornus mas) の利用史」

○赤司千恵・Namiq Huseynli

O-10 16:30-16:45 「カザフスタン先史時代のキビ利用に関する新たな考古植物学的証拠」

○庄田慎矢・Akhan Onggaruly・村上夏希・Saule Rakhimzhanova・Byeon Eyonhwan・Nam Sanwon・Arhat Karimagambetov・
Abdinur Nuskabay・Kim Eunjeon・佐々木由香

O-11 16:45-17:00 「居家以岩陰遺跡から出土した縄文時代早期のヒエ属とマメ」

○那須浩郎・工藤雄一郎・佐々木由香・百原 新・谷口康浩

学会ニュース

● 会費納入のお願い

2021年度の会費納入にご協力ください。

日本植生史学会会費（2010年度より）一般会員：6,000円・学生会員：3,000円・シニア会員：3,000円・団体会員：8,000円・賛助会員：一口20,000円とし一口以上とする。

会費納付先：郵便振替口座 00980-8-70087 加入者名 日本植生史学会

● 異動・所属変更に伴う会員情報変更のお願い

学生会員及び一般会員の方で、異動、所属変更等がある方は、以下の日本植生史学会事務局にご連絡ください。

事務局：

- 連絡・問合せ 庶務幹事 村上由美子 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館
TEL：075-753-3279 庶務：hbmain@hisbot.jp 会誌投稿：journal@hisbot.jp
- NL編集 ホームページ・企業広告問い合わせ 広報・渉外幹事 西内李佳 広報・渉外：hbnews@hisbot.jp
- 入会・異動・退会の申し込み、バックナンバーの購入、メーリングリストアドレスの登録・変更、NL発行
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル 株)春恒社 学会事業部内
日本植生史学会事務局
Tel：03-5291-6231 Fax：03-5291-2176 Mail：hisbot-office01@shunkosha.com
- 学会ホームページ <http://hisbot.jp/>